



厳しい寒さの中、板の間の武道場に気迫のこもった声飛び交う。面の隙間からのぞく鋭い視線。「ドン！」と、強い踏み込みの音と振動が響き、目にも留まらぬ速さで長さ166cmの木銃が相手を突く。

三条市の三条商業高校「銃剣道部」は県内で唯一、銃剣道に取り組む部活動だ。銃剣道はライフル銃の形をした木銃で肩や喉などを突き合い、勝敗を決する武道。服装は剣道に似るが、相手を斬る動作はなく、有効打は突きに限られる。

競技者でもある顧問の滝沢元氣教諭(36)が呼び掛け、2006年に同好会として発足、07年に正式に部となった。活躍はめざましく、09年の新潟国体、13年の東京国体で優勝。全国高校生銃剣道大会でも13、14年に団体2連覇を達成した。

現在の部員は1、2年の男女6人(マネジャー1人含む)。全員が高校で競技を始めたが、土日も

三条商高銃剣道部

踏み込み鋭く相手突く

基本の大切さ胸に稽古 村上周太郎部長

稽古が厳しく、やめたいと思ったこともありましたが、試合で勝つと報われた気持ちになります。部員は全員が仲良く、厳しいときは互いに厳しく接します。チームワークが良いです。先輩が伝えてきた基本の大切さや声出しを心掛け、稽古に臨んでいます。



含む厳しい稽古で技を磨く。1年の武石光博さん(16)は銃剣道の激しい戦いに魅力を感じて入部。昨年は国体の大舞台にも立ったが、「緊張で何もできなかった」。雪辱をばねに先輩にぶつかると日々。

団体は3人1組で戦う。目下の目標は、昨年3連覇を逃した夏の高校生大会での優勝だ。滝沢教諭は「技術は他県に比べても上。後は精神面の成長だ」と課題を挙げる。部長の2年、村上周太郎さん(17)は「3連覇を達成できず悔しい思いをした。絶対に王座を奪還する」と力を込めた。



稽古に励む銃剣道部の部員たち。一瞬の駆け引きが勝敗を左右する銃剣道部の部員たち。男女混合で稽古している(ともに三条市田島2)